

2022 年春学期/クイーンズ大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで記載されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

テキストを使う授業は少なかった。毎週月曜日に先週の復習を兼ねた小テストがあった。プロジェクターなどを使ってビデオを見るようなこともした。

core, lab spoken, vocabulary, discussion という授業があった。core では、主に教科書を使って英語を学んだ。その授業内容に基づいたリーディングのテストやリスニングのテストをほぼ毎週受けた。中間、最終タスクとしてプレゼンやレポートやエッセイなどがあった。lab spoken では毎週リスニングテストをうけた。最終タスクは5分間のソロプレゼンだった。vocabulary では授業内で学んだ内容を次の週にテストした。discussion では、グループプレゼンをして、その後そのプレゼンの内容について自分の意見をグループ内で話し合った。

テキストに沿って新出単語やリーディングに取り組んでいましたが、プログラム後半からはテキストを参考にしながら最終エッセイに向けてエッセイやプレゼンテーションを行う上で重要なポイントを学びました。

授業の形態は教科書に沿って学習を進める感じ。進め方は1週間で1つの章を終わらずペース。

ディスカッションやリスニングを中心とした授業だった。教科書も購入したが、宿題として主に取り組んだため先生が教科書の問題を解説する時間は少なかった。大きなテーブルに3, 4人ずつ座るグループ形式だった。

よくある集団授業のような形。挙手することもあったが、先生からあてられることのほうが多かった。テストがほとんどないクラスで、紙でのテストというよりは、プレゼンやエッセイを評価されることが多かった。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

人数は7名。日本人が6名で留学生が1名。留学生の出身国はサウジアラビア。

クラスの人数は15人で、一人レバノン出身の留学生がいて他はすべて日本人だった。

私のクラスは14人で、全員日本人でした。

自分のクラスは16人だったが、1人はビザの関係で帰国したため15人になった。日本人が13人。スペイン人が2人、シリア人が1人。

クラスの人数は14, 15人だった。日本人11人・スペイン人1人・メキシコ人1人・シリア人1人であった。他のクラスでも、日本人の比率が圧倒的に多く、レベルの高いクラスになると中国人が多いそう。

私のクラスは14人で、全員日本人だった。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

先生に指名されて答えるのではなく、積極的な発言が求められた。グループワークの時間がかなり設けられた。

みんな仲が良く明るい雰囲気だった。レバノン出身の留学生は他の生徒と比べて、授業中にたくさんの質問していた。

先生と学生のコミュニケーションが多く、日本とは違い対等な関係だったと感じました。課題の期限について学生が先生に意義を申し立てるということもカナダでは普通だそうです。

クラスの雰囲気はとてもよく、発言しやすい空気感だった。日本の授業と違う点は授業中に自由にスナックを食べやすいところ。

先生がとても親しみやすい先生であった。一コマ170分の授業では小休憩があり、自分のクラスでは好きなタイミングで飲食が可能であった。わからない単語や熟語はスマートフォンを使ってもよいと先生から伝えてもらっていたため、先生に聞けるタイミング以外では積極的に使っていた。日本人が多かったため、休み時間には日本語を使ってしまった時もあった。その時には先生に注意を受け、英語への言いかえに努めた。

先生がよく、ここまで理解した？や質問はない？と聞いてくれることが多かった。日本の先生と比べて、感情を表に出す先生が多かったように感じた。特に、ほめるときは本当にうれしそうにほめてくださって、そこは日本と違っていいところだなと思った。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

イディオムについて

トロッコ問題(ある人を助けるために、他の人を犠牲にするのは許されるかといった内容の問題)が印象に残っている。この内容についてクラス全体でディベートした。反対意見をもつグループを納得させるような意見を考えるのがとても難しかったし、それを英語で説明しようとするときに難しかった。

違法狩猟、過剰漁業、フードロス

地球温暖化

気候変動、パーソナリティ

ファイナルエッセイで私はアメリカの銃規制について取り上げた。留学中にアメリカの小学校で銃乱射事件が起こったり、日本でも銃の事件が起こったりとタイムリーな話題ではあったが自分自身、深く知る機会がなかったので、これを機に調べたりして知識を得ることができて良かった。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

その日に学習したことはその日の就寝前に復習していた。

最終タスクに追われて夜遅い時間まで課題をすることがあったため十分な睡眠が取れない日があった。そんな日の翌日は、授業中眠くならないようにするためにコーヒーを持参するようにしていた。

クラス内では日本人同士であっても英語で話すようにしていました。また、分からないことは積極的に先生に質問して解決するようにしていました。

失敗を恐れずに積極的に発言すること

わからない単語には印をつけ、事前に調べる。事前にできなかった場合には空き時間に先生や他の生徒に意味を聞いてみた。

分からない単語はあえて知らず、文脈で理解するようにしていた。分からなかったら家に帰ってから調べた。また疑問に思ったことは授業後に先生に質問しに行っていた。質問できる雰囲気クラスだったのが良かった。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。
0人(1人)	
1人(2人)	日本
2人(3人)	日本、スペイン、メキシコ、ベトナム

通学手段	通学時間	主に食事はどこでとっていましたか。
バス(5人)	15分~30分(2人)	ホームステイ先(6人)
	30~45分(3人)	
その他(1人)	15~30分(1人)	

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
バスタオル、シャンプー、ボディソープ、洗濯洗剤、ハンガー、	ドライヤー、カミソリ
ベッド、布団、勉強机、ゴミ箱、ソファ、クローゼット、ハンガー、洗濯カゴ、鏡	お風呂用品(シャンプー、リンスなど)、歯磨きセット
勉強机、椅子、ベッド、ベッドサイドランプ、引き出し、タンス、棚、クローゼット、ヒーター、扇風機、ハンガー	タオル、ドライヤー、洗濯ネット
机、たんす、ベッド、鏡、椅子が2つ、ゴミ箱と洗濯物入	洗面用具、歯ブラシセット、髭剃り、部屋着、すりっぱ、下着、靴下、
ベッド、勉強机、クローゼット、歓迎のお菓子、洗濯かご、バスタオル、クローゼット、ハンガー	衣類、バスタオル、ドライヤー、ヘアアイロン、化粧品・スキンケアセット、歯ブラシ・歯磨き粉、シャンプー・リンス、スリッパ
机、いす、ライト、ベッド、たんす、ウォークインクローゼット、ゴミ箱	シャンプー・リンス、ドライヤーなど。

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。
トイレが3つ、シャワーが2つあったこと。地下にも部屋があったこと。
洗濯が週に1回と決められていたため、着る服や使うタオルなど、洗濯を考慮する必要がありました。外と家の中で靴を履き替える場合もあれば、そのままのときもあり、戸惑いました。キッチン、洗濯機、お風呂で使う水が繋がっているため、お風呂に入るタイミングには注意する必要がありました。
バスルームには、シャワーとトイレが一緒にあること、バスルームの壁はタイルではなくコンクリートだったので湿気は大丈夫なのか気になった。お世話になったホームステイ先は、室内でも靴を履く場合もあれば、脱ぐ時もあり、どちらでもよかった。足の汚れが気になる場合は室内用の靴やスリッパを用意したほうがよかったなと感じた。壁が薄く、生活音がよく聞こえた。1階がメインルームで地下1階に自分の部屋を用意していただけた。地下にエアコンがあり、朝夜は特に寒いぐらいだった。
ご飯がハンバーガーだけ、肉だけ、など日本と比べて簡単なものが多く少なく感じることもあった。あと生野菜が減多に出ず、栄養面で不安になることがあったのでビタミン剤を持って行ってよかったなと思った。

ホームステイ生活を快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。
自分からホストファミリーに話しかけるようにするべき。わからないことを聞いたり、その日にあった出来事などを話したりすると良いと思う。
家のルールをしっかりと把握して、きちんとコミュニケーションをとること。
何かあれば躊躇わず何でも直接尋ねる、思っていることは口に出すことが大切だと思います。
同居人と仲良くすること。
寮やホームステイ先が自分で選ぶことができない場合、自分のできないことや苦手なことはためらわず正直に、早めに伝えるべきだと思います。自分が快適に過ごせないだけでなく、寮の方やホストファミリーに誤解や不快感を与えてしまうかもしれないからです。
要望やしてほしいことは遠慮せず言うべきだなと思った。

パソコンは持参しましたか	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい(6人)	日本の携帯をそのまま持参(0人)	ワイヤレスで可能(4人)	はい(1人)
いいえ(0人)	日本からSIMカードを持参(5人)	LANケーブル/ワイヤレス共に可能(1人)	
		不明(1人)	いいえ(4人)

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
大学主催のアクティビティでゲームやスポーツなどをした。友達とダウタウンで買い物。	ARC というジム。。
学校が提供してくれるアクティビティが週に何回かあったので、積極的に参加した。留学生同士やモニターという私たちをサポートしてくれた現地の学生と関わるができるいい機会だった。	図書館、カフェ (tim horton)、ダウタウン、ジム、カタラキセンター
授業後に週 3 ぐらいでアクティビティがありました。現地大学のモニターが主催で、参加は任意でした。ジムでスポーツをし、簡単なゲームや、土日にはピクニックなどがありました。1 泊2日の旅行もありました。卒業前には簡易なプロムがありました。	学校の近くのカフェでよくテイクアウトをして、学校に持ち帰り、課題をしていました。集中して課題をしたいときは学内の図書館を利用していました。また、学内のジムで運動をし、近くの別の大学でバスケットボールに参加させてもらっていました。買い物や食事はダウタウンでよく行っていました。
友達とジムに行って卓球やスカッシュをしたり、一緒にトレーニングしたりした。図書館で課題をした。	学内だとジム・図書館を最も利用した。
放課後には毎週3日ほど大学主催のプログラムがあった。会話を主としたプログラムや、体を動かすスポーツアクティビティ、コンサートなどがあった。授業の後は体を動かしたかったため、スポーツアクティビティにほぼ毎週参加していた。土日にもプログラムがある週があり、ピクニックやランチを楽しむものであった。また、大学の部活動に申し込みができるものもあった。楽しみたい人から真剣にやりたい人まで、曜日やチームで分けられてはいたが自由に選ぶことができた。さらに、1か月に1回ほどのペースでスクールトリップもあった。参加したい人は申し込みをし、日帰りや1泊2日でほかの都市に旅行に行くことができた。	ダウタウン、ショッピングセンター、カフェテリア
家から出ない日はほとんどなかったぐらい、毎日、毎週末どこかしらに出かけていた。クイーンズ大学の現役の学生さんがモニターとして週に3回ほどプログラムを考えてくれていて地域の催しやダウタウン散策などに連れて行ってくれた。	学校の図書館で宿題をしたり、ダウタウンに行ったりしていた。一番よく行ったのはティムホートン。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
洋画を観て、耳を慣らした。単語や文法を復習した。
カナダについて調べた。また、カナダで日本について聞かれると思ったので日本についても調べていた。
YouTube や映画の音声を英語に変えて見るなどをして、英語が耳に入る機会を増やしていました。実際にカナダに留学している人の YouTube を見て現地での生活をイメージしていました。
英語に耳を鳴らすためにシャドーイングをしていた。
携帯電話・sim カードを海外仕様にする、文法を復習する、お金の両替、コロナ関係の書類、
毎日ポッドキャストを聞いて、英語に耳を慣らそうとした。カナダの歴史について調べた。カナダで流行っている音楽を聴いたりもした。

留学前にしておけばよかったと思う準備

アウトプットする練習をしておけば良かったと思う。

英単語をもっと身につけておくこと。

特になし

英語を話す練習。完璧な文でなくても自分が何を言いたいのか相手に伝えきる力を養ってあればよかった。

リスニングの強化・英語に慣れている耳にすること、

もっと日常に英語を取り入れていたらなと思った。好きなアーティストやドラマ、映画など好きなものから英語が吸収出来たらもっと楽しく、早く英語に慣れることができたのではないかと思う。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

日本のお菓子、即席の味噌汁、カップラーメンなど。

カレールー。ルームメイトと日本のカレーと一緒に作ってホストファミリーに振る舞って喜ばれたのはいい思い出になった。

役に立ったもの: 水着、フォーマルな服、フォーマルな靴 喜ばれたもの: 日本のお菓子

日本から持って行ってよかったものは、シャワーの後に体を拭くための速乾のタオル。選択が週に1回だったためとても重宝した。持って行って喜ばれたものは日本のお菓子。やっぱりハイチュー大人気。

簡易スリッパ、モバイル充電器、ブラックサンダー・せんべい(お土産)

日本食を持って行ってよかった。どうしてもご飯やみそ汁が恋しくなる。日本食レストランもあるが、とにかく高い。

日本から持っていく必要のなかったもの

大量の服、単語帳、文法書。

英語の参考書。

目覚まし時計、電子辞書、電卓

バスタオル、洗濯ネット、

電子辞書

たくさん日焼け止めを持って行ったがそんなにいらなかった。基本的な日用品を日数分以上に持って行ったが、それがかさばったので日数分ぐらいで良かった。

日本から持参すればよかったと思ったもの

特になし。

特にない。

風邪薬、虫除け、殺虫剤

とくにない。現地ですべて揃うため。

とくになし

スーツケース二つで行くべきだった。お土産や教科書で重さもぎりぎりになるので二つ持って行ったほうが心に余裕ができたなと思った。私は現地で8000円ぐらいで買ったのですが、痛い出費になった。

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
クレジットカード、デビットカード、現金。	クレジットカード上限 20 万円、現金 5 万円、デビットカード上限なし。
クレジットカード、プリペイドカード、現金を用意した。	四万円分の現金を用意した。
主にクレジットカード、立て替えの支払いや割り勘が必要な際は現金	クレジットカード上限 50 万円を 2 枚、現金 20 万円
クレジットカードと現金	クレジットカード上限 10 万円、現金 6 万
クレジットカード 1 枚、デビットカード 1 枚、現金	クレジットカード 1 枚(上限月 20 万)、デビットカード 1 枚(海外 ATM 対応) (渡航前 10 万)、現金(5 万)
現金 5 万円、メインで使うクレジット 1 枚、予備 2 枚持って行った。現金しか使えないところもあるので、現金は持っていくべきだった。日本円も予備で持って行ったが全く使わなかった。	メインで使っていたカードは口座と紐づけではなく、使う分だけ入金するタイプで、行く前に 30 万円入金し行った。現金はカナダドルで 5 万円ほど持って行った。

現地で支払った住居費と食費を教えてください。	テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。
住居費なし、食費 10 万円くらい。	テキスト代 5000 円くらい、通学費なし。
外食代は多くて月 3 万円ほど。	テキスト一冊 73 ドルで、二冊買ったので 150 ドルほどした。通学費用はわからないが、学校からバスパスを支給されて、キングストン内であればそのバスパスを使ってどこでもいけた。
分かりません。	テキスト代は 1 万 7 千円、通学費はプログラム費用として定期代が組み込まれていたと思うので分かりません。
食費 10 万	テキスト代は 1 冊 70~80 ドルくらい
食費: 友達との外食、カフェテリアでのランチやお菓子 住居費: 支払っていない	テキスト代: 約 13,000 円 通学費: 留学プログラム費用の中に含まれていたため、具体的な数字はわからない。
ホームステイ費用として一括で払ったので、いくらかは分からない。お昼ご飯もできるだけ家から持って行くようにしたので抑えられたはず。	テキスト代は 2 冊で 1 万 5000 円ほど。これが高かった。通学の定期代はほかの諸費用と合わせて外大に一括で払ったので分からない。この一括で払った分の内訳が知りたい。

旅行(大学主催以外)をした場合の期間、費用、行先、手配方法など

1 週間くらいブレイクウィークというものがあり、好きなように時間を使うことができた。私の場合、トロントに行った。メガバスをネットで予約した。往復で 1 万円強。ホテルは 5 泊 6 日で 7 万円くらいだった。
旅行先: トロント、期間: 一泊二日、費用: 約 450 ドル、手配方法: 友達と一緒にインターネットで調べて手配した
連休が何度かあり、私は日本人の友達と 2 泊 3 日でトロントとナイアガラへ旅行に行きました。ネットで鉄道やバス、ホテルの予約を行いました。旅費は 3.4 万ぐらいだったと思います。
(キングストン→トロント)バス往復で 80~90 ドルくらい。最長で 4 泊 5 日。エアビーで 5 人で泊まった。1 人当たり 200 ドルくらい。トロントで近くの大学寮に泊まったときは 1 泊 150 ドルくらいだった。
すべて事前にネットで調べ、自分たちですべて(交通手段・ホテルなど)を手配した。ネット上で予約と支払いが完了できたため、旅行期間中には食費や買い物代ぐらしか支払わなかった。クラスの先生にお勧めを聞いたり、注意するところを事前に聞いたり、世間話の中で旅行に行く予定だと伝えると、先生の方から押してくれることもあった。学期の中ごろにはブレイクウィークがあり、9 日間ほど休みがあった。
トロントに一泊二日、モントリオールとケベックシティに 3 泊 4 日、オタワに日帰りで行った。バス移動が安くおすすめ。特にメガバスとライダーエクスプレスをよく使っていた。ホテルはブッキングドットコムやホテルズドットコムを使った。宿泊費や移動費などすべて合わせて 10 万円ほど。

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

旅行での交通費や宿泊施設代 10 万円くらい、服やお土産などの買い物 10 万円くらい

旅行代や外食代などを含めて、一番多い出費の月が 1,000 ドル。

25 万円ほど

食費 10 万 移動費 5 万 宿泊費 4 万 お土産 2~3 万 遊び 8~10 万

1 回の旅行で/交通費(バスや電車)往復 10,000 円~20,000 円ほど、観光地の入館料合計 20,000 円ほど、食費 10,000~15,000 円ほど、宿泊費 10,000 円~50,000 円ほど/ 旅行先や日数で大きく変わるが、キングストンからの交通の便はあまりよくないと感じた。電車や高速バスの本数が少なく、値段も少し高いと感じた。

普段の買い物や外食、旅行の時の宿泊、移動、食費などすべて合わせると 40 万円いかないぐらい。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

語学力・コミュニケーション能力共に高めることができたと思う。

リスニング力は上がったと思う。今までは英語で映画を見ることに抵抗があったが、今はあまり抵抗感なく、子供向きの映画は難なく楽しめるようになった。

語学力、コミュニケーション能力共に向上したと思います。

相手の言っていることは理解できるレベル。自分から発信するのはぎこちないが伝わるレベル。

新しく学んだ単語や表現を会話の中に取り入れるようになった。聞き取れなかったりわからない単語が出てきたときは聞き返したり意味を訪ねたりして曖昧には終わらないようになった。単語を調べるときには英英辞書で調べるようになった。

行く前よりは、語学力・コミュニケーション能力共に上がったと感じる。カナダ人の人の好きに感銘を受けて、自分もこれからは困っている人がいたら助けよう、席を譲ろう、声をかけてみようと思うことができた。語学力に関しても、帰りの飛行機で隣の人に英語で質問されたときに物怖じせず答えることができて、身につけているなど感じた。

留学前の目標とその達成度

目標は英語を使って意思疎通が図れるようになること。しっかり達成することができ、満足している。

留学前は積極的に行動できるか不安だったが、せっかくの留学だと思って勇気を振り絞って行動ができた。

消極的な性格を変えることを目標にしており、大方達成できました。

留学前の目標は現地の人とコミュニケーションを難なく取れるようになること。達成度は 70% くらい。おおむね達成できたと思っている。

留学前、将来のやりたいこと、どんな職業につかかいたい見つけて帰って来たらなどと考えていたが、あまり具体的に見つけることはできなかった。しかし、留学中に大学外のどこかからのコミュニティに参加してみる、という目標は達成することができた。

留学を通しての成長ポイント

自分の思っていることや考えを人に伝えようとする力が身に付いたと思う。

自分の力でトラブルに対処できるようになった。

挑戦する力が付きました。クラス希望を出す際に、自分のレベルより上を希望したこと、旅行も敢えて自分達だけで行くことを決めたことなどが具体的な出来事でした。

初対面の人でも臆せずしっかりコミュニケーションをとって、場所を聞いたり、すぐに打ち解けられるようになった。英語のリスニング能力が向上した。

語学力もそうですが、人として成長することができたと感じる。日本人は親切だと言われることもありますが私はそうは思わない。見て見ぬふりをする人

や、関わることを避ける人が多いと感じる。カナダで生活する中で最も感銘を受けたのが人の優しさ、社会が子どもやハンデを持った人にも優しい点だ。それがたった 3 か月生活した中でも毎日のように感じることができ、自分自身もそんな風にふるまおうと思うようになった。また、日本という狭い場所にとらわれてはいけなさと感じるようになった。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学前は語学学習に対してかなり期待していた。留学中は怒涛すぎて気持ちが折れそうになっていた。留学後は今まで以上に学びたい気持ちが強くなっている。

英語を話せるようになると世界が広がるということをもっと感じたので、もっと英語を勉強したいと思えるようになった。

留学前はただ単語帳を見る、試験対策として英語を読むことに重要性を感じていましたが、留学中に 24 時間英語を耳にし、耳が英語に慣れていく感覚が分かり、留学後は英語を目で見るよりも耳で継続して聞くことに重要性を感じるようになりました。

留学前にはホームステイが不安だらけで心配だった。留学中には現地の友達がありません、日本人の友達が多くできたので、日本語の安心感を感じてしまいモチベーションが少し下がった時期もあった。1 か月ほど過ぎると耳が少し慣れてきたので、スピーキング能力に力を入れようとモチベーションが上がった。

後になるにつれてモチベーションが上がっていった。留学が終わった今は、この今の力を維持したい、というモチベーションがある。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

最後の授業でのプレゼンテーションに向けての準備。

部屋の備品を壊してしまって、ホストマザーに謝ったこと。

急遽、歯科治療が必要になり、一人で歯医者を受診した際に自分の持っている力を振り絞れたと感じました。

レストランの予約を電話でするとき、電話で買い間違えたチケットを変更してもらったとき、PCR 検査の時間を電話ですらしてもらったとき。

日々の出来事をホストファミリーに毎日伝えること、普段はインドアでアウトドアアクティビティや人に話しかけるのをためらうこともあったが、留学中は、アクティビティを見つけたら積極的に参加するようにしたこと。

キングストンの地元の合唱団に参加したい、と思い、大学のサポーターに合唱団はあるか尋ねたことから始まり、自分で参加していいかメールを送り、一人で参加しに行ったこと。もちろん知らない人だらけで、最初は緊張したが、お母さんコーラスのような合唱団で、見知らぬ日本人をとてん温かく迎えてくださり、本当にありがたかった。最後に、皆さんの前で感謝の言葉を伝えたくて、英語で感謝を伝えて、拍手をくださったときは勇気を出して良かったなと思えた。

留学先大学の良かった点

施設や環境、教育が充実していること。さまざまなアクティビティが用意されていたこと。

先生方のサポートや学校の施設などとても充実していた。立地も都会すぎず田舎すぎずな雰囲気、とても居心地が良かった。全体的に大満足だった。

キャンパスが綺麗で施設も充実しており、とても過ごしやすかったです

留学先大学(クイーンズ大学)はとても綺麗でジムや図書館など施設が充実していて最高だった。

とてもきれいなキャンパスでよかったカフェテリアが期間限定ではあったが利用できて楽しかった

トロントなどの大都市にも行ける距離だが、治安のよい田舎町という雰囲気だった。ジムや図書館も大学の正規の学生と変わらないぐらい利用させてもらえてよかった。何より大学自体が街のようで綺麗。